



きざき

題字：寺尾 貞男 氏（笹山）

令和3年3月12日



令和2年度 第8号

地域を見つめ直すきっかけづくりで夢を描く

校長 増井 一久

ある日、職員室に入った時、こんな会話が聞こえてきました。

「『えんぞ』って何ですか？」

「え～、『えんぞ』知らないの。若いねえ。」

みなさんは「えんぞ」をご存じですか？ 私は子どもの頃、この言葉をよく使っていましたが、この会話を聞くまでしばらく使っていないことに気づきました。また、とっても懐かしい気持ちになりました。

「えんぞ」とは、新潟方言の一つで、側溝や下水のことです。私の子どもの頃は、今のように側溝や下水にコンクリートやグレーチングのふたがしてありませんでしたので、誤って落ちてしまうこともありました。そんな時には、

「〇〇、なんしたん、その足。きったねえなあ。」

「今、あさってのほう見てて、えんぞに落ちこちたて。」

「あきゃー。」

と、こんな感じで会話していました。また、行動が遅かったり、少し間違った言動をした時には、家族や近所の人、学校の先輩から「もーぐれてっと、えんぞに落とすぞ！」と言われたりもしました。今ならパワハラと言われるかもしれません。

「ちよす」（触る）、「ぼっこす」（壊す）、これを合体して「ちよしぼっこす」、「しよし」（恥ずかしい）、「なんぎ」（辛い）、「なじらね」（いかがですか？）、「びちやる」（捨てる）、「あちさん」（よその人）等々、職場や学校、そして、家庭でも、新潟の方言を使ったり、聞いたりする機会が減ってきています。

書店で「新潟県方言集成」というかなり厚い本（辞典）を見つけました。当校の図書館司書にこの本の話をする、「学校でも買しましょう。」と、図書館蔵書の一冊に加えてくれました。

新潟方言と言っても面積の広い新潟県。知らない言葉がたくさんありました。また、地域によって表現が微妙に異なることも分かり、とても興味深く拝読しました。

あとがきを読み、「地域を見つめ直すきっかけ」という言葉が当校のスローガン「夢を描く力の育成」にも通じると思いました。その一部を紹介します。

平成から令和へと時代が移る中で、少子高齢化がますます進み、各地の方言も消えつつあると思われる。そうした時代だからこそ、先人たちが刻み続けた言葉の文化遺産を一冊にまとめ、地域を見つめ直すきっかけとなることを願ってやまない。

【「新潟県方言集成」あとがきの一部引用、下線は筆者】

最近では、お笑い集団の「NAMARA」（なまら＝とても）、西区の「いっぺこーと」（いっぺこと＝たくさん）、北区の「おらってのバス」（おらって＝私たち）のように、馴染み深い新潟方言を少しもじったネーミングをあちこちで見かけるようになりました。このことも「地域を見つめ直すきっかけ」になっていると思われます。

さて、まもなくコロナ禍の一年だった令和2年度が幕を閉じます。正しく恐れながらの一年、オンライン化により以前とは違う生活が定着しました。このような中でありましたが、夏休み以降は、地域や保護者の皆様と共に教育活動を行うことができました。おかげで、子どもたちに「木崎を見つめ直すきっかけづくり」となる教育活動を全学年で展開することができました。子どもたちは地域を見つめ直すことで、木崎のよさを知り、自分にできることを深く考えました。このことは子どもたちの夢を描く力の育成につながりました。皆様からの多大なるご支援に心より感謝申し上げます。





「きざき」本号では、今年度の当校の教育活動の自己評価を掲載いたします。ご一読いただくと共に、今後も当校へのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

学校評価年度末報告

「保護者意識調査」にご協力いただきありがとうございました。9月からの教育活動を振り返りました。その結果をお知らせします。

1【資質・能力&授業力】

自分で課題を見付け、主体的・協働的に学ぶことについて重点的に取り組んでいます。

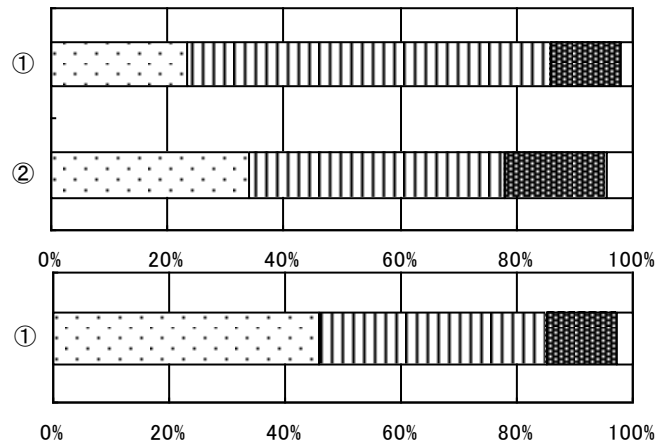
グラフの見方  そう思う  まあそう思う  あまり思わない  そう思わない

「そう思う」と「まあそう思う」を肯定的評価として捉えています。

<保護者意識調査>

()内は、前期との比(△プラス・▼マイナス)

項目	肯定的評価の割合
① 学校の勉強の内容が分かっていますか。	85.9% (△1.3%)
② 「10分×学年」の家庭学習の声掛けや確認をしている。	77.8% (△4.6)



<子どもアンケート>

項目	肯定的評価の割合
① 生活科・総合的な学習の時間で調べたいことを見付けて学習していますか。	85% (▼8.2%)

<今後に向けて>

今回の保護者アンケートの結果をみますと、「学習内容が分かっている」の肯定的評価が84.6%→85.9%、「10分×学年の家庭学習の声掛けや確認をしている」の肯定的評価が73.2%→77.8%と、どちらも前期より上がっていることが分かります。特に、家庭学習への声掛けを積極的にいただいているご家庭が増え、たいへんありがたく感じております。今年度は休校がありましたが、学校と家庭が連携して各学年の学習内容をしっかりと定着させるよう、年度末までしっかりと取り組んでいきたいと考えています。

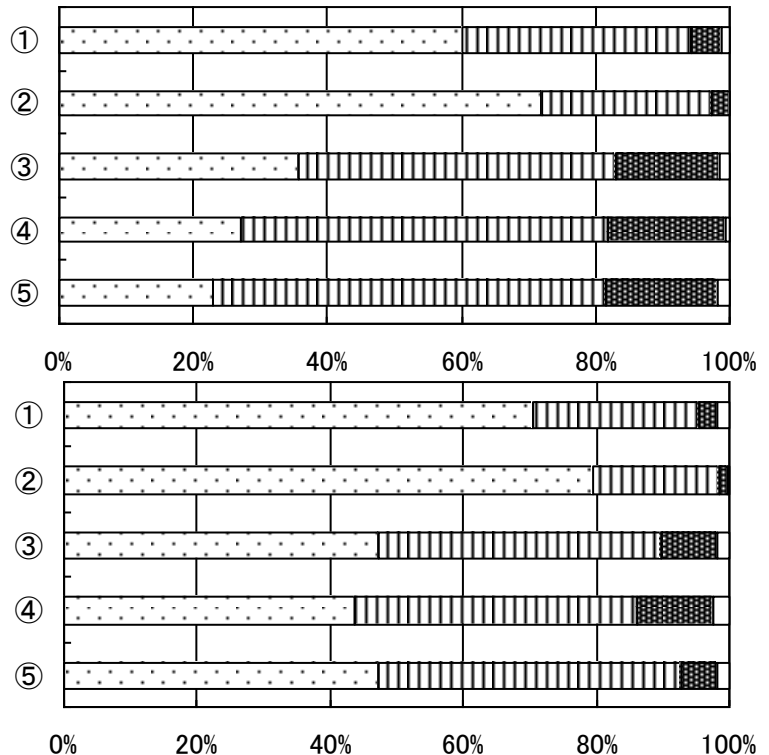
また、児童のアンケートの結果をみますと、「生活科・総合的な学習の時間で調べたいことを見付けて学習していますか」の肯定的評価が93.2%→85%とやや下がっています。教師がやることを提示するのではなく、子どもたち自身が課題を見付け主体的に学習を進める方策を検討する必要があります。木崎小学校区には、魅力ある教材がたくさんあります。今後も地域の素晴らしいところを子どもたちが見付け、探究し、学習できるように、職員も研修を深めていきたいと考えています。

今年度もあたたかいご支援をいただきまして、ありがとうございました。

2【豊かな心】 木崎小の合い言葉「時間を守ります・元気にあいさつします・静かに聞きます」等の生活目標の徹底と、よりよい人間関係づくりに重点的に取り組んでいます。

<保護者意識調査>

項目	肯定的評価の割合
① 学校に行くのが楽しそうである。	94.3%
② 学校に仲の良い友達がいる。	97.5%
③ 家族や地域の方にあいさつをしている。	83.0%
④ きまりや約束を守っている。	82.0%
⑤ 周りの人のことも考えて行動している。	81.5%

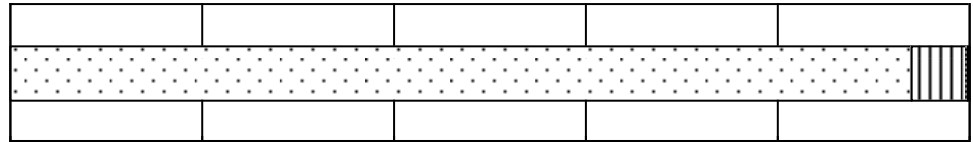


<子どもアンケート>

項目	肯定的評価の割合
① 学校は楽しいですか。	95.5%
② 学校に仲の良い友達がいいますか。	98.6%
③ 学級会で自分たちのことについて考え、解決しようと話し合っていますか。	89.7%
④ 自分には良いところがあると思いますか。	86.1%
⑤ 自分のことだけでなく、周りの人のことも考えて行動していますか。	92.8%

○ いじめの有無 ( : ない  : あった  : 受けている)

	肯定的評価の割合
ない	93.9%
あった	5.8%
受けている	0.3%



0% 20% 40% 60% 80% 100%

<今後に向けて>

保護者意識調査・子どもアンケートの結果を見ると、「①学校が楽しい」、「②仲の良い友達がいる」についての肯定的評価は、保護者評価、児童評価がいずれも94%以上と高い割合になっており、学校生活が楽しく、友達関係が良いと感じている様子が分かります。

「③あいさつ」については保護者の肯定的評価が前期より若干下がりましたが、高い割合でした。生活目標の期間だけではなく、年間を通してあいさつの指導を行い、これまで以上に家庭・地域へもあいさつが広がるようにしていきます。

子どもアンケートの結果を見ると、「③学級会で自分たちのことについて考え、解決しようと話し合っていますか」については、肯定的評価が89.7%（前期89.5%）でした。今後は、学年に応じた話し合いのめあてを示すことで、より話し合いの力が身に付くようにしていきます。

「④自分には良いところがあると思いますか」の項目では、肯定的評価が前期と同じで86.1%でした。「⑤周りの人のことも考えて行動していますか」の肯定的評価は保護者が81.5%（前期79.3%）、児童が92.8%（前期92.2%）でした。互いに認め合うことを生活目標として取り組み、委員会活動など、児童主体で友達や自分の良いところを目に見える形に表すことで、自分の良いところを認めたり、気付かせたりしていきます。

「いじめがあった・受けている」と回答された保護者が6.1%でした。今後も、いじめは絶対に許されない行為として共通認識し、学校全体で指導に当たっていきます。

3【特別支援教育】

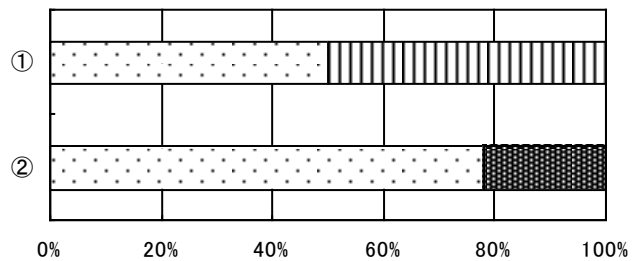
自立と社会参加の力をはぐくむことを重点的に取り組んでいます。

<教職員調査>

生活面や学習面で困り感を抱えている児童の「個別の指導計画」や「教育支援計画」を作成し、目標に向かって支援する体制を整えました。また、情報を職員間で共有し、多数の目で見守ることができるようにしています。職員で同じ意識をもち、多様な友達を認め合う風土作りを進めてきました。

()内は、前期との比(△プラス・▼マイナス)

項目	肯定的評価の割合
① 特別な支援を要する児童について、作成した個別の支援計画並びに個別の指導計画を元に情報を共有し、指導を受けながら支援の見直しを進めて、指導に役立てた。	100% (△10%)
② 個別の指導計画を作成した児童に関して、短期目標に前進があった。	78.2% (△11.6)



<今後に向けて>

木崎小学校の子どもたちが安心して学校に通うことができるように、学習面でも生活面でも、多数の目で見守りながら支援していきます。また、「思いやり」や「個性尊重」について考えを深める授業を、道徳などで取り入れていきます。「自分にはよいところがある」という自己肯定感をはぐくむことが思いやりや個性尊重につながっていきます。今後も職員間の情報共有を図りながら、児童には肯定的な言葉がけを継続し、自己肯定感を高めていきます。

保護者の皆様とは、個別懇談などの機会を通して、お子さんについて共通理解を図ることを目指してまいりました。今後もお子さんのことで気になる様子がありましたらいつでも学校までご連絡ください。今年度もあたたかいご支援をいただきまして、ありがとうございました。

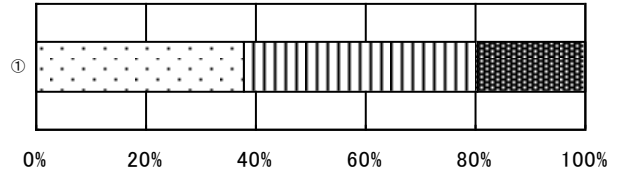
4【体づくり】

食事に関心を持ち、望ましい食習慣を形成することについて重点的に取り組んでいます。

<保護者意識調査>

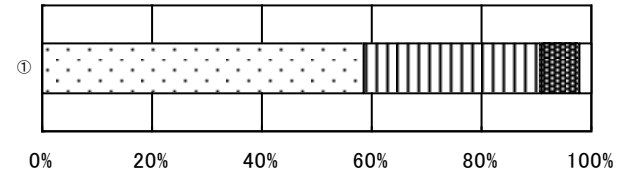
()内は、前期との比(△プラス・▼マイナス)

項目	肯定的評価の割合
① 食事に関心を持ち、残さずたべようとしている。	78.0% (△1.2%)



<子どもアンケート>

項目	肯定的評価の割合
① 食べることの大切さを考えて、進んで食事を作ったり食べたりしている。	90.7% (△1.8%)



<今後に向けて>

保護者アンケートで、十分そう思う：35.5%，どちらかといえばそう思う：42.5%でした。②児童評価で、進んで作る：58.5%，作ることがある：32.1%で、肯定的評価は、90.7%でした。

後期は、進んで食事を作ると答えた児童が1.8%増えました。生活科や総合で地域の食材を学び、それらを使ったおかず作りを学ぶことで、児童は食に対する興味や関心を持つことができました。さらに、弁当の日の取組みを通して、自ら進んで食事を作ったり、食べたりする児童が増えていきました。

今年度の実践を生かし、生活科や総合での食に関する学習から食への関心を高めていきたいです。弁当の日の取組がより充実したものとなるよう、調理師専門学校や新潟医療福祉大学とも連携しながら、地域の食材の魅力を学ぶ機会を設定したり、自分で作ることへの意欲を高めたりする取組を継続したいと考えています。

GIGA スクール便り

全校児童にタブレットが配られ、最初は少し戸惑いがちで始めましたが、みんなれるのが早いですね。

